

37 ひろがわら どうけつぐん 広川原の洞穴群



本穴

指 定 県天然記念物 昭和51年 3 月29日
所在地 田 口
所有者 禅昌寺・市川栄三郎



広川原の洞穴群は、田口字広川原の禅昌寺裏山、標高850m前後の山腹一帯に構成されている洞穴である。

この付近は秩父古生層に多い角岩から成り、これが不規則な断層をつくり、洞穴はその断層の裂け目が水により侵蝕されてできた空洞で、なかには水をたたえて地下湖となっているところもある。洞穴は石灰岩にできるのが普通であって、このような硬質岩にできるのは地質学上也珍しいとされている。

古くから、最勝洞・弁天窟などと呼び、名勝地として知られてきたが、昭和に入ってから、湖沼学や生物学の権威ある学者によって調査が行われた結果、日本における珍しい地下湖であり、学術的に価値の高い洞穴として認められたものである。

現在判明している11の洞穴と9つの池は次のとおりである。

- 1、本穴（弁天池・御渡池・機織池）
- 2、竜王穴（竜王池）
- 3、七宝穴（七宝池）
- 4、蛇穴（蛇池）
- 5、鏡穴（御鏡の池）
- 6、極楽穴
- 7、地獄穴
- 8、蝙蝠穴（蝙蝠池）
- 9、屏風穴
- 10、奥の院穴（奥の院池）
- 11、抜穴。

洞穴のうち最大の本穴は、入口は1ヵ所で内部に3つの洞穴をもち、地下湖もそれぞれ3つに分かれている。そのうち1つ「弁天池」は幅1.2m・奥行き6m・深さ3mで、9池のうち最も大きい。

なおこれら洞穴内の池はいずれも流出入の口を持たず、水量に変化なく、日光の透入度、水温水質など細かく調査されており、調査時は、どの池にもケンミジンコと呼ぶ無色無眼の生物が棲息していた。